米国の経済指標を斬る！＜第 10 回＞

米国の家計バランスシート調整－負債－

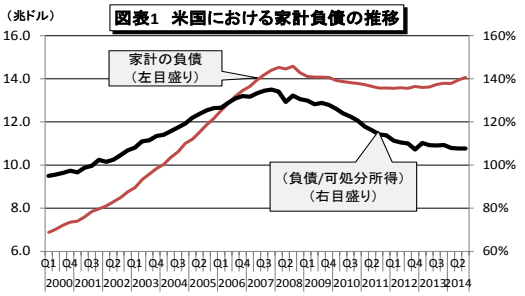
趙　玉亮

バランスシート調整とは、一般的に資産価格の大幅な下落によって、資産売却や負債圧縮などが引き起こされる現象を指す。米国ではリーマンショック以後、資産価格の急落を受け、家計のバランスシートは調整が行われてきた。以下では、家計の負債を中心に、その調整過程と種類別の構成を整理する。

負債の高止まりと家計負担感の軽減

リーマンショック以前、住宅購入や住宅価格の上昇を前提とした借入が旺盛だったため、家計負債は急速に膨らみ、2008 年にピークを迎えた（図表 1）。その後、住宅バブルの崩壊に伴い家計は過剰債務に直面し、消費支出の削減や新規借り入れの抑制などで、家計負債は低下に転じた。しかし、雇用改善や経済回復の下、負債残高は再び上昇し始め、直近では 14 兆ドルと、ピーク時の水準には及んでいないが、緩やかに上昇している。

図表1　米国における家計負債の推移



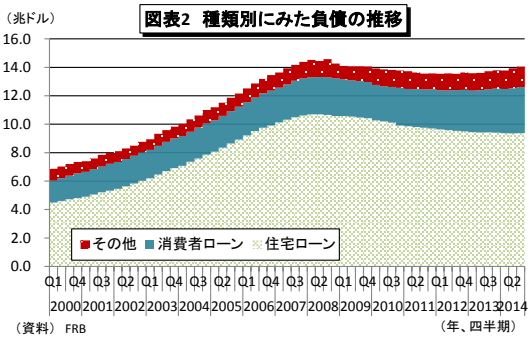
（資料）FRB、BEA。

一方、家計への負担感を示す可処分所得に対する負債の割合をみると、家計消費抑制のほか、08～12 年までは景気対策による移転所得増や減税などから急速に低下した。13～14 年は、負債残高が増加に転じたため低下傾向は鈍化したものの、03 年と同じレベルまで低下しており、家計負担感が軽減したと考えられる。

種類別にみた負債の動向

種類別に負債の構成を確認すると、主に学生ローンや自動車ローンの増加によって、11 年半ばから消費者ローンは上昇に転じ、直近で 3.2 兆ドルとなり、ピークだった 08 年の水準（2.6 兆ドル）を大幅に超えた（図表 2）。ただし、返済能力の低い消費者を中心に、自動車のサブプライムローンや学生ローンの増加が目立つなど（自動車サブプライムローン残高：12 年には 2,250 億ドル、直近は 3,370 億ドル）、新たな懸念も浮上している。

図表2　種類別にみた負債の推移



（資料）FRB
注　消費者ローンは学生ローン、自動車ローン、クレジットカードなどが含まれる。

また、住宅ローン残高（ホームエクティローンを含む）は、08 年第 1 四半期に市場最高水準に達した後、減少傾向が続いている。その理由は、銀行の償却による減少、貸出基準の厳格化、新規借入の抑制などがあげられる。直近で、住宅ローン残高は 9.4 兆ドルと 06 年末と同じ水準であり、依然として高い。今後も、緩やかなペースで住宅ローンの減少が続くとの見方が根強い。

家計負債の調整は消費に大きな影響を及ぼすことから、今後もその動向や関連政策を注視していきたい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます
http://www.nochuri.co.jp/